海外神社とは？

史料と写真が語るもの

神奈川大学　日本常民文化研究所　非文字資料研究センター
編集・執筆　津田良樹・渡邊奈津子

海外神社とは？

史料と写真が語るもの

神奈川大学　日本常民文化研究所　非文字資料研究センター
編集・執筆：津田良樹・渡邊奈津子

はじめに

この図録は、2014 年 3 月 25 日〜30 日に行われた展示会『海外神社とは？　史料と写真が語るもの』の展示図録である。時間的制約があったため、事後に図録を作るという結果になった。

展示会は、史料展示として古写真・絵葉書・絵画資料・図面などをもとに各地の海外神社の神社時代の実像に迫るとともに、跡地の現状写真などを対比的に展示することによって、戦後の神社跡地の景観変容についても理解しやすいようにとの意図で企画した。

また、跡地の現況については研究協力者でフリーランスのカメラマンである稲宮康人氏の独自の写真コーナーを設け、カメラマンの眼をとおしてみた跡地の景観についての写真展を併せて行った。

以上の趣旨のもとに展示会は、「①資料展示」、「②プロジェクターによるプレゼン」、「③稲宮康人氏による写真展」の 3 本柱で構成された。

しかし、稲宮氏の写真展については、2012 年 12 月に行った展示会に際し『帝国後　海外神社跡地の景観変容―稲宮康人写真展図録』として多くの作品が既に出版されていることもあり、重複を避けるために、今回の図録には収録しなかった。それでも新旧写真を対比的に交互に動画で示した「②プロジェクターによるプレゼン」の現状写真は稲宮氏の写真を使用しており、そういったことで稲宮氏の写真も多数収録されている。

編集方針としては、「①資料展示」については、展示会の様相をできるだけ再現するように努めた。しかし、展示の際の壁面と収録する図録の版面の関係から必ずしも展示会の様相を再現することはできなかった。そのため、メリハリの乏しい内容になったきらいはある。「②プロジェクターによるプレゼン」については、新旧写真を左右に並べて収録することにした。満洲国建国神廟と台湾神社の復原動画はそれぞれ数枚の図面に置き換えざるを得なかった。なお、動画は神奈川大学非文字資料研究センターの「海外神社（跡地）に関するデーターベース」（http://www.himoji.jp/himoji/database/db04/）で公開している。また、全体につながりを持たせる意図で、古絵葉書を中心に葉書大の画像をつなぎ合わせた帯で展示壁面の下端を飾った帯は表紙デザインや扉などで使用して、展示会の雰囲気を幾分なりとも伝えるために活用した。

各資料の出典の前に示した⊠は神社時代、□は戦後の資料であることを示している。

なお、展示会ではキャプションの煩雑化をさけるため、資料の出典を省略したが、図録収録にあたっては出典を追加明示した。これは渡邊奈津子氏の努力のたまものである。　（津田良樹）

2014 年 3 月の展示会ポスター

展示は以下の３本柱で構成した。すなわち、「①資料展示」、「②プロジェクターによるプレゼン」、「③稲宮康人氏による写真展」である。「①資料展示」では壁面の都合上、特徴的な事例に絞り込まざるを得なかった。そのため、それを補完するために古絵葉書を中心に葉書大の画像をつなぎ合わせた帯でできるだけさまざまな資料を示した。「②プロジェクターによるプレゼン」では、資料展示での絞り込みを補完するべく、新旧写真を交互に示すとともに２つの復原動画を交えることによって理解を助けるように努めた。「③稲宮康人氏による写真展」では、昨年度実施した写真展に新たに撮影した写真を追加し、再構成を図った。

資料を提供いただいた方々（敬称略）
辻子　実、仲　二郎、池宮城晃、稲宮康人、瀧元　望

この展示会にかかわった人々
津田良樹、中島三千男、泉水英計
稲宮康人、金子展也、辻子　実、橘川俊忠、渡邊奈津子
堀内寛晃、田中秀明、長林　豪
諸葛　衍、杉江知樹、木村敏幸、肝付兼悟、渡辺海渡、吉田雄大、藤木貴之

展示会における説明板

東南アジア

東南アジアで最も早く建てられたのは、タイのアユタヤ、日本人町旧址とされた場所に建てられた（山田）長政神社で、1935年に海軍の手で建てられた。

最も大きな神社はアジア太平洋戦争で日本軍がシンガポールを占領した後（1942年、昭南島と改称)、1943年に建てられた昭南神社で、イギリス軍捕虜などを動員してマクリッチ貯水池の傍に建てられた。

この他東南アジアにはベトナムの暁神社（サイゴン)、インドネシアの八達威（バタビア）神社、タラカン神社、フイリピンのダバオ神社等があった。

昭南神社

⊠左右：内閣情報部編輯『写真週報』235 号　1942（昭和 17）年 8 月

図上下：内閣情報部編輯『写真週報』235 号　1942（昭和 17）年 8 月

☒上下：内閣情報部編輯『写真週報』264 号
1943（昭和 18）年 3 月

□撮影　瀧元望

長政神社

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

南洋群島
～北マリアナ諸島
・パラオ共和国等～

第１次世界大戦後、ヴェルサイユ条約（1919 年）により、赤道以北の旧ドイツ領南洋諸島は日本の委任統治領となり、日本は南洋庁を設置してこれを統治した。

日本人移住者が増えるにしたがって、サイパン島の彩帆神社はじめ、各主要地（島）に神社が建てられるようになった。

中心的な神社は 1940 年創立・列格のパラオ支庁コロール島に建てられた官幣大社南洋神社（祭神は天照大神）で、敗戦までに 27 の神社が建てられた。なお、敗戦によりすべての神社は廃絶したが、1980 年代に入り 6 つの神社が再建された。

南洋神社

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

⊠『官幣大社南洋神社御鎮座祭記念写真帳』
南洋神社奉賛会　1941（昭和 16）年

⊠上下：『官幣大社南洋神社御鎮座祭記念写真帳』

⊠左右：絵葉書（辻子実コレクション）

□神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター所蔵

□中島三千男「海外神社跡地に見る景観の変容」（『環境と景観の資料化と体系化にむけて』神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会議、2004 年 12 月）

都落神社

☒小菅輝雄篇著『南洋群島――micronesia　昔今』
南洋群島協会　1985 年

□撮影　稲宮康人（2013 年）

天仁安神社

☒『我等が海の生命線　南洋写真帖』南洋舎

□神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター所蔵

彩帆神社

☒『我等が海の生命線　南洋写真帖』

□神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター所蔵

折れ曲がった鳥居（戦後）

□財団法人沖縄県文化振興会公文書館管理部史料編集室
『沖縄県史　資料編 15　2 分冊の 2、旧南洋群島関係写真資料（上）近代 4』沖縄県教育委員会、2002 年 3 月

台湾

台湾では日清戦争後の日清講和条約（1895 年）によって日本の領土となって以降、多くの神社が建てられた。

1896 年に清朝の国家的祭祀施設であった、鄭成功を祀る明延平郡王祠を開山神社と改称（98 年に県社に列格）したことを嚆矢とする。2 番目は台湾の総鎮守として 1900 年に創立・列格された台湾神社（01 年鎮座、44 年天照大神を合祀して台湾神宮と改称）であり、祭神は北白川能久親王と開拓三神（大国魂命、大己貴命、少彦名命）である。

能久親王は下関条約で割譲された台湾の「平定」のために近衛師団長として派遣され、「平定」後に台南の地でマラリアに罹り病没した。海外で逝去した最初の皇族であった。台湾の多くの神社は祭神にこの能久親王を祀っている。

官幣社 2、国幣社 3、県社 10 を含む 200 を超える神社や社（設備が十分に整っていない神社）が建てられた。今日、神社遺構が数多く残っているのも台湾の特色であり、中には修復保存されているものもある。

台湾神社

⊠上下：絵葉書（辻子実コレクション）

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

□撮影　津田良樹

官幣大社台湾神社境内之図

☒銅版画（辻子実コレクション）

台湾神社之景

☒銅版画（辻子実コレクション）

1945 年台湾神社空中写真

昭和 20（1945）年の空中写真である。左の直線的に延びる社殿群が旧来からの台湾神社（神宮)、中央付近の白っぽい部分が台湾神宮遷座予定地、右端が台湾護国神社である。中央の台湾神宮遷座予定地をよく見ると本殿・祝詞殿やそれらを囲む玉垣は確認できるものの、内拝殿は梁がむき出しのようである。内拝殿に続く祭舎・渡廊など回廊は一部残っている。一方、外拝殿や楼門部分は白っぽく何もないようだ。すなわち、ほぼ完成した社殿に航空機が墜落して社殿が大破した後の様子が写されている。

台湾神社、昭和造替・遷座？

台湾神社は、台北北部の剣潭山に明治34（1901）年に鎮座した台湾の総鎮守である。祭神は開拓三神と能久親王であった。昭和10（1935）年には皇紀2600年記念事業として昭和12–15年までの工期で、昭和15年11月の式典にあわせて大改築し、社号を神宮に改称し、天照大神・明治天皇を増祀する計画を立てた。しかし、紆余曲折の末、ほぼ完成したのは4年遅れの昭和19年のことであった。その上、遷座直前（2日前）の19年10月23日に航空機墜落事故によって新社殿が大破する。それに先立つ6月に社号を神宮に改称、天照大神を増祀するが、明治天皇の増祀はなかった。結局、予定された新社殿への遷宮は行われず、新社殿は一度も正規の台湾神宮になることがなかった。台湾神宮は旧来の境内地で昭和20年11月に廃止されたのである。

台湾神社附近平面図

旧来の台湾神社の左側に旧来の配置と同様な縦長の社殿配置で 1.5 倍ほどに拡大した計画初期段階の図が描かれている。実際には位置を山裾に移し、次頁の配置図の如く横長配置で実施された。

⊠青焼き図面（辻子実コレクション）

台湾神宮造営計画配置図

☒『台湾神社御造営奉賛会趣意書竝会則』

台湾神宮予定社殿正面図

☒上下：『台湾神社御造営奉賛会趣意書竝会則』

嘉義神社

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

台湾の神社跡地には神社遺構が比較的よく残っている。特に神社時代の雰囲気をよく残しているのが嘉義神社跡地である。

嘉義神社は嘉義市山子頂に大正４（1915）年 10 月に能久親王・大国魂命・大己貴命・少彦名命・天照皇大神を祭神に鎮座した国幣小社である。本殿・拝殿などは残ってないが、斎館および社務所・手水舎・休憩所等の遺構が残っており、石灯籠なども神社時代に近い形で整備されている。

⊠辻子実『侵略神社』新幹社　2003 年

□撮影　津田良樹（2009 年 1 月）

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

□撮影　津田良樹（2011 年 9 月）

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

□旧斎館、左手に一部見えるのが旧社務所
撮影　津田良樹（2011 年 9 月）

台中神社

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

□撮影　津田良樹

台中神社社殿平面図

☒『台湾建築会誌』第 13 輯第 8 号
台湾建築会　1941 年 8 月

台湾護国神社

☒『台湾建築会誌』第 14 輯第 4 号
台湾建築会　1943 年 2 月

□国民革命忠烈祠（台湾護国神社跡地）
撮影　津田良樹（2011 年 9 月）

高雄神社

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

□撮影　津田良樹（2011 年 9 月）

朝鮮

～韓国・朝鮮～

朝鮮半島では近世に釜山の倭館に金刀比羅神社（後に国幣小社龍頭神社）が建てられ、また明治以降、元山や仁川などに日本人居留民等によって、神宮遥拝所などの小祠が建てられていった。1910年の韓国併合以降、朝鮮総督府により、神社や神祠（設備が十分に整っていない神社）の整備がすすみ、1919年には京城の南山に朝鮮半島の総鎮守として官幣大社朝鮮神社が創立・列格（25年に朝鮮神宮と改称、同年に鎮座）された。祭神は天照大神と明治天皇である。

朝鮮神宮

☒『明治大正建築写真聚覧』日本建築学会　1936 年

☒『朝鮮神宮写真帖』
朝鮮神宮社務所　1930 年 12 月

☒『朝鮮神宮写真帖』
朝鮮神宮社務所　1930 年 12 月

□撮影　津田良樹（2011 年 9 月）

⊠上下：『朝鮮神宮写真帖』
朝鮮神宮社務所　1930 年 12 月

朝鮮神宮配置図

⊠『朝鮮神宮造営誌』
朝鮮総督府　1927 年 3 月

朝鮮神宮全景図

☒絵図（辻子実コレクション）

原州神社

御造営設計図社殿立面

☒青焼き図面（仲 二郎所蔵）

朝鮮において、神社が多数建てられたのは、1930 年代後半からで、1 道 1 国幣社、1 面（村）1 神社政策が展開され、1939 年には朝鮮における二つ目の官幣大社扶余神宮が創立された（祭神は応神・斉明・天智天皇と神功皇后、未鎮座）。こうして朝鮮には海外神社としては最大の 995 社（官幣社 2、国幣社 8 を含む 82 の神社、913 の神祠）が建てられ、キリスト教に対する厳しい抑圧が進行した。

小鹿島神社

⊠現地の説明板に掲載された写真

□津田良樹・中島三千男・金花子・川村武史「旧朝鮮の神社跡地調査とその検討――全羅南道、和順郡を中心に――」(『年報　人類文化研究のための非文字資料の体系化』第3号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2006年3月)

江原神社

☒『朝鮮と建築』第 21 輯第 9 号
朝鮮建築会　1942 年 9 月

□撮影　稲宮康人（2009 年 4 月）

☒『朝鮮と建築』第 21 輯第 9 号
朝鮮建築会　1942 年 9 月

□撮影　津田良樹（2009 年 9 月）

小鹿島神社・江原神社

小鹿島神社は、全羅南道高興郡のハンセン病棟「小鹿島更正園」が置かれた小鹿島に昭和 11（1936）年に設立された。祭神は天照大神。患者のキリスト教徒が参拝を拒否して拷問を受けるなど忌まわしい過去が伝えられている。韓国で本殿・拝殿の遺構が残る唯一の例であり、そのほか社務所や祭器庫などが残っている。

江原神社は、江原道春川郡に大正 7（1918）年 3 月創立の国幣小社（昭和 13 年に春川神社を改める）。本殿・拝殿は残っていないが、神門や改造が甚だしいものの神楽殿・社務所の遺構が残る。

光州神社

☒『朝鮮と建築』第 21 輯第 9 号
朝鮮建築会　1942 年 9 月

□津田良樹・中島三千男・金花子・川村武史「旧朝鮮の神社跡地調査とその検討――全羅南道、和順郡を中心に――」(『年報　人類文化研究のための非文字資料の体系化』第 3 号、神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会議、2006 年 3 月)

満洲
～中国東北部～

日露戦争後の日露講和条約（1905 年）と日清満洲善後条約によって、日本はロシアから長春以南の鉄道利権を譲り受けて以降（後、南満洲鉄道株式会社設立）、この満鉄沿線の付属地を中心に神社が建てられ始めた（満鉄付属地神社、最も早いのが 1905 年の安東神社）。満洲に多くの神社が建てられ始めたのは、いうまでもなく満洲事変（1931 年）以後で、とくに「満洲国」が成立させられ、また、大量の開拓団民が送り出されるようになると、各主要都市や開拓団村（開拓地神社）に多く建てられるようになった。こうして、敗戦までに約 300 社の神社が建てられた。

また神社ではないが、1940 年には満洲国皇帝溥儀の帝宮に天照大神を祀る建国神廟を創設するとともに、同年建国忠霊廟を建て満洲事変以降の殉難者を祀った。

建国忠霊廟

☒『満洲建築雑誌』第 21 巻 1 号
社団法人満洲建築協会　1941 年 1 月

□撮影　津田良樹（2012 年 3 月）

☒『建国忠霊廟鎮座祭写真帖』
満洲帝国祭祀府総務処　1944 年 2 月

□撮影　津田良樹（2012 年 3 月）

⊠『建国忠霊廟鎮座祭写真帖』
満洲帝国祭祀府総務処　1944 年 2 月

□撮影　津田良樹（2012 年 3 月）

⊠左右：『建国廟造営概要』

建国忠霊廟と建国神廟

建国忠霊廟は昭和15（1940）年8月に創設された旧満洲国の靖国神社に相当する施設である。一方、建国神廟は同年7月に創設された日本の伊勢神宮ないし宮中賢所に相当するものである。

忠霊廟は中国風と日本風を折衷した建物であり、造営時に刊行された『建国廟造営概要』や『建国忠霊廟鎮座祭写真帖』があるほか、なぜか多くの建物が現存しており、様相がよくわかる。

神廟は公刊された資料には、かつての様相を示すものはきわめて少ない。山内泰明氏が『神社建築』で紹介する略平面および略断面があるばかりであろう。展示した写真は「その時歴史は動いた　ラストエンペラー最後の日～『満州国』と皇帝・溥儀～」（NHK、2002年1月16日）に使用されたテレビ画面を撮影したもの。これらの写真数枚が具体的様相を示している。立体図は、『神社建築』に収録された図面やこの写真などの資料と発掘された基壇・礎石の実測をもとに復原した。

建国神廟

☒『その時歴史は動いた　ラストエンペラー最後の日～『満州国』と皇帝・溥儀～』NHK　2002 年 1 月 16 日

□撮影　津田良樹（2012 年 3 月）

☒建国神廟復原図
（作図：堀内寛晃）

新京神社

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

□津田良樹・中島三千男・堀内寛晃・尚峰「旧満洲国の『満鉄附属地神社』跡地調査からみた神社の様相」（『年報　人類文化研究のための非文字資料の体系化』第４号、神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会議、2007 年３月）

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

□津田良樹・中島三千男・堀内寛晃・尚峰「旧満洲国の『満鉄附属地神社』跡地調査からみた神社の様相」（『年報　人類文化研究のための非文字資料の体系化』第４号、神奈川大学21世紀COEプログラム研究推進会議、2007年３月）

奉天神社

⊠左右：『奉天神社誌』奉天神社社務所　1939 年 6 月

□下：池宮城晃『写真集　旧満洲の街角 1984 年』合資会社池宮商会出版部　昭和 60 年

関東洲
～中国東北部～

日露戦争後の日露講和条約（1905 年）と日清満洲善後条約により、ロシアの租借権を継承して以降、大連神社（1909 年創立）など大連市を中心に 12 社が建てられた。

中心的な神社は、戦争末期に天照大神と明治天皇を祭神とし、旅順市に建てられた官幣大社関東神宮である（1938 年創立・列格、1944 年鎮座）。

関東神宮

関東神宮本殿・幣殿

⊠上下：石川佐中『関東神宮』 1987 年

関東神宮神門・廻廊

□神社時代の建物ではないかと思われる
　左右：撮影　池宮城晃

□関東神宮跡地　現在の地図・空中写真
　をもとに作成した。

中華民国
～中国～

中華民国における神社は、天津の天津神社（1915 年）等、開港場や租界など、日本人居住者の増大と共に、少しずつ建てられていった。

急激に増えたのはいうまでもなく、日中戦争（1937 年）後の日本軍の占領地の拡大や、親日（傀儡）政権である汪兆銘の新国民政府（南京）の成立（1940 年）以後である。北京神社（1940 年）・南京神社（1942 年）をはじめ、中華民国に建てられた神社の内、8 割がこの時期に建てられた。

なお、中華民国の神社は居留民団から領事館に出願し、領事館から外務大臣へ報告するという形で建てられた。

南京神社

南京神社社殿新築設計姿図

図青焼き図面（仲 二郎所蔵）

☒「金陵旧梦—你没见过的南京高清旧照」
http://newhouse.nanjing.fang.com/house/2012-04-23/7525931_all.htm

□左写真は旧斎館・社務所、右写真は旧拝殿である
左右：撮影　津田良樹（2013 年 2 月）

仲 二郎家所蔵図面

仲 二郎氏（奈良県天理市）の父親徳治郎氏は長く奈良県内を中心とした指定文化財の修理を担当された宮大工である。

徳治郎氏は、昭和16–19年にかけて軍の依頼を受けて中国大陸に渡り南京神社などの神社を造営した。工事に先立って台湾において台湾檜を調達し、軍関係の船に満載して大陸に持ち込んだという。その際使用されたと思われる設計図がこれらの図面である。

青焼きの陽画や陰画で、経年とともに薄れている図面がある一方昨日焼いたのかと思われるほど鮮明な図面もある。南京神社・徐州神社・新郷神社・九江神社の図面が残っておりこれらの神社の造営を担当したようだ。いずれにせよ、海外神社関するこのような図面が残っている例は他では確認されておらず極めて貴重な資料といえよう。

徐州神社

徐州神社改築設計図

⊠青焼き図面（仲 二郎所蔵）

⊠辻子実『侵略神社』
新幹社　2003 年

□煙草工場。中央に見える建物脇（道路側）に社殿が建っていた。道路は戦後の新設。
撮影　津田良樹（2013 年 2 月）

樺太
～サハリン～

日露戦争後の日露講和条約（1905 年）において北緯 50 度以南が日本の領土となって以降、日本人の集住地域である豊原や大泊、真岡などに神社が本格的に建てられ始め、1910 年に樺太庁の所在地である豊原市（現ユジノ・サハリンスク）に開拓三神（大国魂命、大己貴命、少彦名命）を祭神とする官幣大社樺太神社が創立・列格、翌年に鎮座した。

1945 年までに、樺太護国神社および 7 つの県社を含め、128 社が建てられた。

樺太神社

☒左右：絵葉書（辻子実コレクション）

□撮影　稲宮康人（2009 年 10 月）

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

□撮影　稲宮康人（2009 年 10 月）

☒『全国官国弊社写真帖』
愛知県神職会　1937 年 9 月

□冨井正憲・藤田庄市・中島三千男「旧樺太（南サハリン）神社跡地調査報告」（『年報　人類文化研究のための非文字資料の体系化』第 1 号、神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会議、2004 年 3 月）

真岡神社

☒『樺太庁施政三十年史』下
　樺太庁　1936 年

□冨井正憲・藤田庄市・中島三千男「旧樺太（南サハリン）神社跡地調査報告」（『年報　人類文化研究のための非文字資料の体系化』第 1 号、神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会議、2004 年 3 月）

亜庭神社

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

□冨井正憲・藤田庄市・中島三千男「旧樺太（南サハリン）神社跡地調査報告」（『年報　人類文化研究のための非文字資料の体系化』第１号、神奈川大学 21 世紀 COE プログラム研究推進会議、2004 年 3 月）

樺太護国神社

⊠絵葉書（辻子実コレクション）

□撮影　稲宮康人（2009 年 10 月）

プロジェクターによる
動画使用画像

各頁、左は戦前期画像、右は跡地写真で撮影はいずれも稲宮康人である。なお、CAD によって作図された満洲国建国神廟および台湾神社は本来は動画であるが、ここでは静止画数カットで示した。

朝鮮～韓国・朝鮮～

朝鮮神宮

大邱神社

忠州神社

江原神社

大田神社

愛宕神社

公州神社

光州神社

仁川神社

全州神社

京城護国神社

京城神社

龍頭山神社

扶餘神宮

満洲～中国東北部～

建国神廟

安東神社

撫順神社

新京神社

建国忠霊廟

奉天神社

鞍山神社

建国神廟　社殿　復原動画
（作製：堀田寛晃）

関東洲～中国東北部～

大連神社

白玉山納骨祠

関東神宮

中華民国～中国～

上海神社

樺太〜サハリン〜

樺太神社

樺太護国神社

台湾

台湾神社

台湾神社復原動画
（作製：田中秀明、長林豪）

新竹神社

能高神社

林内神社

嘉義神社

台中神社

高雄神社

台湾護国神社

建功神社

阿緱神社

台南神社

南洋群島～北マリアナ諸島・パラオ共和国等～

南洋神社

都落神社

大東亞南洋精圖
樺太
滿洲
関東洲
朝鮮
中華民国
台湾
南洋群島
東南アジア

INDEX

東南アジア

昭南神社
祭　神：不明
鎮座地：マクリッチ水源地内
備　考：1943（昭和 18）年　設立

長政神社
祭　神：山田長政
鎮座地：タイ国アユタヤ

南洋群島～北マリアナ諸島・パラオ共和国等～

南洋神社
社　格：官幣大社
祭　神：天照大神
鎮座地：パラオ支庁パラオ島コロル町アルミス高地
備　考：1940（昭和 15）年 11 月 1 日　創立

都落神社（都洛神社）
祭　神：天照大神
鎮座地：トラック支庁トラック諸島夏島町
備　考：1926（大正 15）年 7 月 9 日　創立

天仁安神社
祭　神：天照大神、明治天皇、貴船神
鎮座地：サイパン支庁テニアン島ソンソン市街
備　考：1934（昭和 9）年 11 月 23 日　創立

彩帆神社
祭　神：天照大神、大国主命、香取大神
鎮座地：サイパン支庁サイパン島ガラパン町香取山
備　考：1914（大正 3）年 11 月 3 日　創立

台湾

台湾神宮
社　格：官幣大社
祭　神：能久親王、大国魂命、大己貴命、少彦名命、天照大神
鎮座地：台北州台北市大宮町
備　考：1900（明治 33）年 9 月 18 日　創立
1901（明治 34）年 10 月 27 日　鎮座

嘉義神社
社　格：国幣小社
祭　神：能久親王、大国魂命、大己貴命、少彦名命、天照大神
鎮座地：台南州嘉義市山子頂
備　考：1915（大正 4）年 10 月 28 日　鎮座

台中神社
社　格：国幣小社
祭　神：能久親王、大国魂命、大己貴命、少彦名命
鎮座地：台中州台中市新富町
備　考：1911（明治 44）年 2 月 28 日　創立
1912（大正元）年 10 月 27 日　鎮座

台湾護国神社
社　格：靖国・護国神社系（総督神饌幣帛供進指定神社護国神社）
祭　神：靖国神社ノ祭神ニシテ本島ニ縁故有スル英霊
鎮座地：台北州台北市大直

備　考：1942（昭和 17）年 5 月 23 日　鎮座

高雄神社
社　格：県社
祭　神：能久親王、大物主命、崇徳天皇
鎮座地：高雄州高雄市寿町
備　考：1912（明治 45）年 2 月 5 日　鎮座

新竹神社
社　格：国幣小社
祭　神：能久親王、大国魂命、大己貴命、少彦名命
鎮座地：新竹州新竹市客雅
備　考：1918（大正 7）年 10 月 25 日　鎮座

能高神社
社　格：無格社
祭　神：能久親王、大国魂命、大己貴命、少彦名命
鎮座地：台中州能高郡埔里街
備　考：1940（昭和 15）年 10 月 6 日

林内神社
社　格：無格社
祭　神：能久親王、大国魂命、大己貴命、少彦名命、豊受大神
鎮座地：台南州斗六郡斗六街林内
備　考：1940（昭和 15）年 12 月 20 日　鎮座

建功神社
社　格：靖国・護国神社系（無格社）
祭　神：明治二八年改隷以降台湾ニ於ケル戦死者、準戦死者、
　　殉職者、準殉職者、及殉難者
鎮座地：台北州台北市南門町
備　考：1928（昭和 3）年 7 月 14 日　鎮座

阿緱神社
社　格：県社
祭　神：能久親王
鎮座地：高雄州屏東市大宮町
備　考：1918（大正 7）年 1 月 13 日　創立
　　1919（大正 8）年 10 月 4 日　鎮座

台南神社
社　格：官幣中社
祭　神：能久親王
鎮座地：台南州台南市南門町
備　考：1923（大正 12）年 10 月 28 日　鎮座

朝鮮～韓国・朝鮮～

朝鮮神宮
社　格：官幣大社
祭　神：天照大神、明治天皇
鎮座地：京畿道京城府南山
備　考：1919（大正　8）年 7 月 18 日　創立
　　1925（大正 14）年 10 月 15 日　鎮座

原州神社
祭　神：天照大神、国魂大神
鎮座地：江原道原州郡原州邑
備　考：1933（昭和 8）年 12 月 6 日　鎮座

小鹿島神社
祭　神：天照大神
鎮座地：全羅南道高興郡錦山面
備　考：1936（昭和 11）年 5 月 13 日　創立

江原神社
社　格：国幣小社
祭　神：天照大神、国魂大神、明治天皇、素盞嗚尊
鎮座地：江原道春川郡春川邑
備　考：1918（大正 7）年 3 月 11 日　創立

光州神社
社　格：国幣小社
祭　神：天照大神、国魂大神
鎮座地：全羅南道光州府亀岡町
備　考：1917（大正 6）年 5 月 1 日　創立

大邱神社
社　格：国幣小社
祭　神：天照大神、素盞嗚尊、国魂大神
鎮座地：慶尚北道大邱府城西町
備　考：1906（明治 39）年 11 月 3 日　鎮座
　　1916（大正 5）年 4 月 22 日　創立

忠州神社
社　格：邑供進社
祭　神：天照大神
鎮座地：忠清北道忠洲郡忠洲町龍山里
備　考：1923（大正 12）年 9 月 17 日　鎮座
　　1934（昭和 9）年 8 月 7 日　創立

大田神社
社　格：道供進社
祭　神：天照大神、明治天皇、昭憲皇太后
鎮座地：忠清南道大田府大興町
備　考：1911（明治 44）年 11 月　鎮座
　　1917（大正 6）年 6 月 11 日　創立

愛宕神社
祭　神：不明
鎮座地：京畿道仁川府（月尾島山頂）

公州神社
社　格：邑供進社
祭　神：天照大神
鎮座地：忠清南道公州郡公州邑旭町
備　考：1910（明治 43）年　鎮座
　　1926（大正 15）年 11 月 6 日　創立

仁川神社
社　格：道供進社
祭　神：天照大神、明治天皇
鎮座地：京畿道仁川府宮町
備　考：1890（明治 23）年 10 月 10 日　鎮座
　　1916（大正 5）年 4 月 24 日　創立

全州神社
社　格：国幣小社
祭　神：天照大神、明治天皇、国魂大神
鎮座地：全羅北道全州府華山面
備　考：1916（大正 5）年 9 月 29 日　創立

京城護国神社
社　格：靖国・護国神社系（道供進社）
鎮座地：京畿道京城府龍山区龍山町
備　考：1943（昭和 18）年 10 月 20 日　創立

京城神社
社　格：国幣小社
祭　神：天照大神、国魂大神、大己貴命、少名彦命

鎮座地：京畿道京城府倭城台
備　考：1898（明治 31）年 10 月 3 日　鎮座
　　1916（大正 5）年 5 月 22 日　創立

龍頭山神社
社　格：国幣小社
祭　神：天照大神、国魂大神、大物主神、表筒男命、中筒男命、底筒男命
鎮座地：慶尚南道釜山市弁天町
備　考：1678（延宝 6）年 3 月　創建
　　1917（大正 6）年 7 月 10 日　創立

扶餘神宮
社　格：官幣大社
祭　神：応神天皇、斉明天皇、天智天皇、神功皇后
鎮座地：忠清南道扶餘郡扶餘面
備　考：1939（昭和 14）年 6 月 15 日　創立

満洲～中国東北部～

建国忠霊廟
社　格：靖国・護国神社系
祭　神：満洲事変以来満洲建国のために殉じた男女
鎮座地：新京特別市大同大街南端南鴨聖域
備　考：1940（昭和 15）年 9 月 18 日　鎮座・創建

建国神廟
祭　神：天照大神
鎮座地：新京特別市帝宮内
備　考：1940（昭和 15）年　創建

新京神社
社　格：神饌幣帛供進指定神社
祭　神：天照大神、明治天皇、大国主命
鎮座地：新京特別市敷島区平安町
備　考：1915（大正 4）年 10 月 29 日　設立

奉天神社
社　格：神饌幣帛供進指定神社
祭　神：天照大神、明治天皇
鎮座地：奉天省奉天市大和区琴平町
備　考：1915（大正 4）年 10 月 25 日　設立

安東神社
社　格：神饌幣帛供進指定神社
祭　神：天照大神
鎮座地：安東省安東市鎮江山
備　考：1905（明治 38）年 10 月 3 日　設立

撫順神社
社　格：神饌幣帛供進指定神社
祭　神：天照大神、大国主命、金山比古命、金山比売命
鎮座地：奉天省撫順附属地永安台西公園内
備　考：1909（明治 42）年 2 月 1 日　設立

鞍山神社
社　格：神饌幣帛供進指定神社
祭　神：天照大神、明治天皇
鎮座地：奉天省鞍山鎮守山
備　考：1924（大正 13）年 6 月 23 日　設立

関東洲～中国東北部～

関東神宮
社　格：官幣大社
祭　神：天照大神、明治天皇
鎮座地：関東州旅順市
備　考：1938（昭和 13）年 6 月 1 日　創立
　　1944（昭和 19）年 10 月 1 日　鎮座

大連神社
祭　神：天照大神、明治天皇、大国主神、靖国神
　　〈配祀〉天之御中主神、高皇産霊神、神皇産霊神、産土神
鎮座地：関東州大連市南山 2–2
備　考：1909（明治 42）年 10 月 10 日　創立

白玉山納骨祠
社　格：靖国・護国神社系
鎮座地：関東州旅順市

中華民国～中国～

南京神社
祭　神：天照大神、明治天皇、国魂大神
鎮座地：中華民国南京五台山
備　考：1942（昭和 17）年 10 月　設立許可

徐州神社
祭　神：天照大神、明治天皇、熱田大神
鎮座地：中華民国徐州豊財鎮
備　考：1940（昭和 15）年 2 月 10 日　設立許可

上海神社
社　格：神饌幣帛供進指定神社
祭　神：天照大神、明治天皇、神武天皇
鎮座地：中華民国江湾路 118
備　考：1933（昭和 8）年 11 月 1 日　設立許可

樺太～サハリン～

樺太神社
社　格：官幣大社
祭　神：大国魂命、大己貴命、少彦名命
鎮座地：豊栄支庁豊原市豊原町旭ヶ丘
備　考：1910（明治 43）年 8 月 17 日　創立

真岡神社
社　格：県社
祭　神：天照皇大神、豊受姫大神
鎮座地：真岡支庁真岡郡真岡町大字真岡字山手町 4 丁目区画
備　考：1910（明治 43）年 8 月 31 日　創立

亜庭神社
社　格：県社
祭　神：大国主命、事代主命、御食津神、誉田別尊、市杵島姫命
鎮座地：大泊支庁大泊郡大泊町大字大泊字本町西 1 条南 3 丁目
備　考：1914（大正 3）年 8 月 14 日　創立

樺太護国神社
社　格：靖国・護国神社系
祭　神：西久保豊一郎命他六五三柱
鎮座地：豊栄支庁豊原市大字南豊原字南 3 線 16 蕃地
備　考：1935（昭和 10）年 9 月 3 日　創立

展示風景（サブウェイギャラリーＭにて）

『海外神社とは？ 史料と写真が語るもの』
―公開展示会図録―

発行日　2015 年 3 月 31 日
発行　　神奈川大学日本常民文化研究所非文字資料研究センター
編集・執筆　　津田良樹・渡邊奈津子
〒 2218686　横浜市神奈川区六角橋 3 −27−1
TEL　045−481−5661/　FAX　045 −491−1659
URL　http://himoji.kanagawa-u.ac.jp/
印刷　株式会社 精興社

表紙写真：満州国建国忠霊廟本殿跡地
　　撮影：稲宮康人
裏表紙写真：満州国建国忠霊廟本殿
　　『建国忠霊廟鎮座祭写真帖』満州帝国祭祀府総務処　康徳 11（1944）年 2 月 1 日